

二風谷アットウシの概要

二風谷アットウシとは

沙流川流域に古くから伝わり、現在は主として平取町二風谷で伝統的技法が継承されている、オヒョウ等の樹皮の内皮から作った糸を用い機織りされた反物のことで、着物や半纏、前掛け・帯や小物類等に使用される。



工芸品の特徴

アットウシは、アツニ（オヒョウ）等の樹皮の繊維で糸を作り、アットウシカラペ（機織り機）を使って織られた反物のことを言い、その作業の多くが女性の手によるものである。織物の特徴としては、水に強いことや通気性に優れていること、天然繊維としては類稀な強靱さと独特の風合いを持っていることなどが挙げられる。二風谷アットウシは、100年前に使用されていた道具とほぼ同様の道具を現在も使用して作られており、糸に撚りをかけることも特徴と言われている。



糸撚り

手工業性と主な工程

二風谷アットウシの製造工程は、糸裂き、機結び、糸撚り、受け糸取り、機織り等、多岐にわたっており、それぞれの工程において手作業となっている。

